

## 地理学教室便り (2019年度)

「お茶の水地理」59号をお届けいたします。本誌は、お茶の水女子大学地理学教室の教員とOGが共同で編集し、お茶の水地理学会が刊行しています。本誌に掲載する論文・記事の多くは、当教室の専任教員、大学院生、卒論生、OGによるものです。今号には、論文5編をはじめ、短報、自然地理学奨学基金奨学生報告書、博士論文・修士論文・卒業論文要旨、お茶の水地理学会講演会要旨などを掲載しました。また、特別記事として2019年度末に本学を定年退職した熊谷圭知元教授のインタビューを掲載しました。以下に教室便りとして、その他の教育・研究の概要および構成員の動向についてお知らせします。

2019年度の専任教員は、昨年度から変更なく、学部地理学コースに水野、宮澤（主任）、長谷川の3名が、グローバル文化学環に熊谷、倉光が在籍しました。水野は2019年度から文教育学部長を務めております。大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻地理環境学コースでは、専任教員として熊谷（代表）、水野、宮澤、長谷川、倉光の5名が、兼任教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授（国際関係論）、荒木准教授（開発研究、アフリカ地域研究）が教育・研究指導を担当しました。これら7名の教員は全員、大学院博士後期課程ではジェンダー学際研究専攻の教員です。アカデミック・アシスタントにも変更はなく、古野と福田が担当しました。お茶の水地理学会事務局も、引き続き東野が担当しました。

2019年度の非常勤講師は、以下の先生方です。学部の教養科目（コア科目・リベラルアーツ科目）では、片岡久美、鈴木智恵子、吉岡由希子（以上、情報処理演習）の各先生、地理学コースの専門科目では、小堀昇（地図学）、齋藤元子（地理学英書講読）、中山大地（測量学）、中澤高志、山口隆子（以上、地理環境学演習Ⅰ・Ⅱ）、池田和子、植木岳雪、米家志乃布、今野絵奈（以上、地理学フィールドワークB）の各先生、教職課程では、木村真冬、寺本誠、渡邊智紀（以上、社会科教育法Ⅰ（地理歴史））、玉谷直子、中村光貴（以上、地歴科教育法）の各先生、大学院では荒又美陽（環境文化論）先生に科目を担当していただきました。先生方におかれましては、地理学教室のカリキュラムを充実したものにしてください、この場を借りてお礼申し上げます。

学部地理学コースの学生は、2年生が5名、3年生が11名、4年生が13名でした。4年生のうち12名が卒業し、それぞれの進路に巣立っていきました。民間企業への就

職が9名、公務員と教員になったものがそれぞれ2名と1名でした。また、本学の専門教育の特徴である複数プログラム選択履修制度で、副専攻として地理学を選択している学生は、3年生と4年生が共に6名でした。

大学院博士前期課程では4名が入学しましたが、博士後期課程では入学者はありませんでした。大学院学生数は博士前期課程と後期課程あわせて13名でした。修了者は、博士前期課程が4名、博士後期課程が1名（課程博士）でした。博士前期課程修了者のうち1名は民間企業に就職、3名は本学博士後期課程に合格し、進学しました。その他に論文博士による学位取得者が1名いました。

最後に、2019年度に実施した巡検と、教室構成員が公表した主な研究成果の一覧を掲載します。専任教員の研究成果については、本学公式webサイトの「研究者情報」もご覧ください。8月に東京武蔵野で実施した長期巡検の内容については、後日、本学webサイトに掲載予定の報告書をご覧ください。構成員一同、地理学の教育・研究にこれからも努力していく所存です。本誌のさらなるご愛読、ご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

(2019年度学部地理学コース主任 宮澤 仁)

### 2019年度実施の巡検（実施地等の一覧）

- 4月 成城・田園調布（宮澤）  
お茶の水（水野）  
一日巡検の事前授業（水野）
- 5月 筑波山（植木）
- 6月 伊豆大島（植木）
- 8月 武揚堂工場見学（小堀・宮澤）  
東京武蔵野（水野）
- 9月 夢の島（長谷川）  
和光市・成増（長谷川）  
茅ヶ崎（今野）  
市ヶ谷・神楽坂（米家）
- 10月 国分寺・国立（池田）  
多摩ニュータウン（宮澤）
- 12月 環境エコプロダクツ（長谷川）  
長瀬（植木）
- 1月 江東区（水野）
- 2月 国土地理院（長谷川）  
コア分析実習（長谷川・植木）

## 2019年度に公表した主な研究成果（一覧）

### 【執筆物】

内山みどり 2019. 在日ミャンマー・カチン系移民の現実と課題－「はたらきかけ」を通じた主体的実践に焦点を当てて. お茶の水地理 58: 31-40.

大垣志織 2019. CSA(Community Supported Agriculture)における“C”の特性－東京大都市圏3地域のCSA農家を対象に. お茶の水地理 58: 21-30.

久島桃代 2019. 農山村に移住する女性たちの経験と場所感覚－福島県昭和村「織姫」を事例として. 地理学評論 92: 224-240.

久島桃代 2019. 農山村女性移住者と自然との関わりにみるライフストーリー－福島県昭和村における「織姫」と「からむし」との関わりから. 日本オーラル・ヒストリー研究 15: 109-124.

熊谷圭知 2019. 「南洋」の新しい地誌を描くために. 地理 64(4): 82-89.

熊谷圭知 2019. はじめに一実習と報告書の目的. 熊谷圭知ほか編『ベトナム難民受け入れの過去から考える多文化共生の未来』(2018年度群馬県伊勢崎市「地域研究実習Ⅱ」報告書) 2-3. お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環.

熊谷圭知 2020. ブーゲンビルはなぜ独立をめざすのか－住民投票の歴史的背景. 世界 929: 28-32.

Kumagai, K. 2020. Shifting multiple masculinities: Alternative views from Japan and Papua New Guinea. In *Routledge handbook of gender and feminist geographies*, eds. A. Datta, P. Hopkins, L. Johnston, E. Olson and J. M. Silva, 48-60. London: Routledge.

倉光ミナ子 2020. 歴史を知る:2018年度「国際協力実習」を担当して. お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環『2018年度国際協力実習報告書 フィリピン』71. お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環.

Kuramitsu, M. 2020. Constructing ‘home’ through mothering: A case study of early Samoan wives in Japan. In *Maternal geographies: Mothering in and out of place*, ed. J. Johnston and K. Johnston, 29-41. Ontario: Demeter Press.

佐藤香寿実 2019. 「スケールのパフォーマンスティヴィティ」とストラズブルの大モスク建設－アクターの言説実践に着目して. 人文地理 71: 393-416.

長谷川直子 2019. 地理学のアウトリーチサロン始めました. 地理 64(5): 1-2.

長谷川直子 2019. 「統合自然地理学」(書評). 地図中心

560: 49.

長谷川直子・植木岳雪・早川裕弼 2019. 地理学のアウトリーチに関する活動と展望. 地理学評論 92: 38-39.

Miyazawa, H. 2019. Distribution of vacant homes in Tama City in Tokyo Metropolitan Area: Estimation using GIS and small area statistics. In *The Rise in vacant housing in post-growth Japan: Housing market, urban policy, and revitalizing aging cities*, ed. T. Kubo and Y. Yui, 87-109. Singapore: Springer Nature Singapore Pte Ltd.

宮澤 仁・若林芳樹 2019. 保育サービスの需給バランスと政策課題－GISを用いた可視化から考える. 日本労働研究雑誌 707: 35-46.

由井義通・宮澤 仁・若林芳樹 2019. 郊外住宅団地再生に向けた地域包括ケアシステムの導入. 日本都市学会年報 52:65-71.

### 【口頭発表・講演・ポスターセッション】

浅尾理沙子 2020. 男女共同参画政策にみられる自治体差の要因分析－埼玉県の市町村を事例に. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会(東京学芸大学).

大竹あすか 2019. 中核市に立地する書店の経営方針－岩手県盛岡市を事例に. 日本地理学会秋季大会(新潟大学).

熊谷圭知 2019. 「被災地」の復興と場所・風土の再構築－2011～2018年, 陸前高田でのフィールドワークからの試論. 国際開発学会春季大会(陸前高田グローバルキャンパス).

熊谷圭知 2019. 場所論からの〈男性性と身体〉再考－パプアニューギニア, ブラックウォーターの痕跡文身儀礼の参与観察から. 日本地理学会秋季大会(新潟大学).

熊谷圭知 2019. フィールドワークする, 場所をつくる－パプアニューギニアと陸前高田をつなぐもの. 人文地理学会大会(関西大学).

熊谷圭知 2019. パプアニューギニアの「場所」の物語－40年のフィールドワークから. 金沢大学シンポジウム「グローバル化と地域－移動・開発・場所」(北國新聞会館).

大道寺覚・長谷川直子 2019. 地理的センスの磨き方. 第10回教育ITソリューションEXPO朝日新聞社ミニセミナー(東京ビックサイト).

高橋澄香 2020. 「街に描かれたアート」からみる池袋のいま. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会(東京学芸大学).

- Thang, L. L., Yui, Y., Wakabayashi, Y. and Miyazawa, H. 2019. Recreating “shutter-down”: Shop spaces for community support and care: Case study of an aging neighbourhood in Japan’s depopulated new town. The 11th International Convention of Asia Scholars. Leiden: Kamerlingh Onnes.
- 永井萌子 2019. フランスにおけるクィアマイグレーションと「黒人LGBT」の日常実践—サハラ以南諸国出身の移民を事例に. 人文地理学会大会 (関西大学).
- 長谷川直子 2019. 地理必履修化へ向けてのヒント. 第10回教育ITソリューションEXPO朝日新聞社ミニセミナー (東京ビックサイト).
- 長谷川直子 2019. 高校地理必修化並びに高校の地理の先生へ期待すること—アウトリーチの経験から. 千葉県高等学校地理部会70周年記念大会 (千葉大学).
- 長谷川直子 2019. 身近な事柄から地域性を理解する—旅行, 食べ物, 災害など. 第102回日港連セミナー (ベイサイドホテル アジュール竹芝).
- 長谷川直子・遠藤宏之・小林正明・和田陽一・岩渕泰晶・高山和弘 2020. 地理関連定期刊行雑誌と地理学のアウトリーチ. 日本地理学会春季学術大会 (駒沢大学).
- 長谷川直子・中川優希 2019. 一般書にみる地理学のアウトリーチ. 地球惑星科学連合大会 (幕張メッセ).
- 長谷川直子・三上岳彦・平野淳平 2019. 諏訪湖・十三湖の結氷解氷記録と冬春季の気候変動 (その1) —諏訪湖結氷記録575年間の再検証. 日本地理学会秋季学術大会 (新潟大学).
- Hasegawa, N., Mikami, T. and Hirano, J. 2019. Long-term changes in the freezing dates of Lake Suwa (1444-present) and Lake Juhsan (1705-1860). The 1st Japan-China Joint Workshop on Historical Climatology in East Asia. Tokyo: Teikyo University.
- 平野淳平・三上岳彦・長谷川直子・財城真寿美・福眞吉美 2019. 諏訪湖・十三湖の結氷解氷記録と冬春季の気候変動 (その3) —十三湖の解氷記録による東京の冬春季気温復元の試み. 日本地理学会秋季学術大会 (新潟大学).
- Mikami, T., Hasegawa, N. and Hirano, J. 2019. Newly discovered long-term freezing/breaking-up dates record of Lake Juhsan in Northern Japan during 1705-1860 as compared with those of Lake Suwa. EMS (European Meteorological Society) Annual Meeting. Copenhagen: Technical University of Denmark.
- 三上岳彦・長谷川直子・平野淳平 2020. 諏訪湖の冬季気温季節内変動と結氷・御神渡り発生との関連. 日本地理学会春季学術大会 (駒沢大学).
- 三上岳彦・長谷川直子・平野淳平・福眞吉美 2019. 諏訪湖・十三湖の結氷解氷記録と冬春季の気候変動 (その2) —十三湖の結氷解氷記録 (1705年~1860年). 日本地理学会秋季学術大会 (新潟大学).